

2021年4月1日

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ
(コード番号 8306)

「MUFG Way」の制定および新中期経営計画について

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ（代表執行役社長 ^{かめざわ ひろのり} 亀澤 宏規、以下 当社）は、当社の存在意義（パーパス）を新たに定義し、それを包含した「MUFG Way」（「経営ビジョン」から改称）を制定しました。また、MUFG Way の下、2021年度からの3年間を計画期間とする中期経営計画を策定いたしました。

わが国は少子高齢化や人口減少等の課題を抱え、世界的にも低成長が常態化しつつあります。また、足元では新型コロナウイルス感染症の影響や環境・社会課題への意識の高まり、デジタル技術進展に伴う異業種の金融事業への新規参入等、当社を取り巻く経営環境は過去に例を見ない速さで大きく変化しています。

当社は、この変化を正しく読み解いたうえでそれを飛躍のチャンスに変え、新しい時代において社会をリードする存在でありたいと考えています。このたび、「世界が進むチカラになる。」を当社の存在意義（パーパス）として設定し、2021年度からの3年間において、金融とデジタルを活用して「世界（全てのステークホルダー）」に対し「どのようにチカラになるか」を中期経営計画にてまとめました。

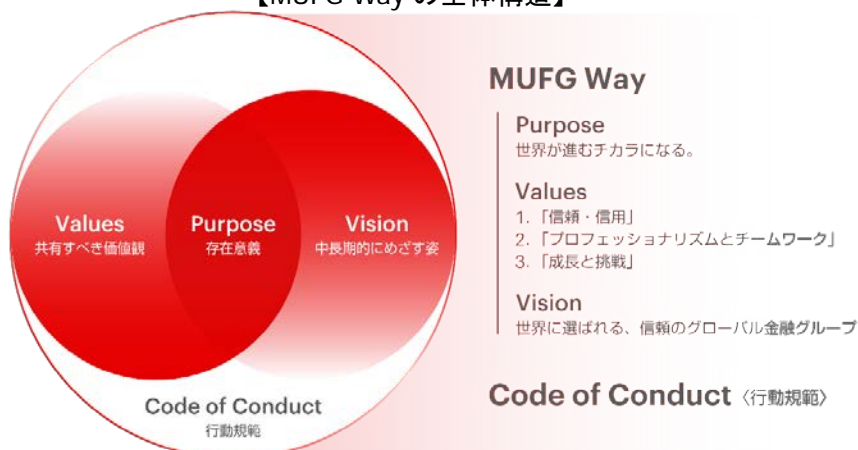
これからの中期経営計画期間を「挑戦と変革の3年間」と位置付け、環境変化に応じたビジネスモデルを作り上げ、また、その結果として収益力向上およびROEの改善を実現することを通じて、お客さま・株主・社員をはじめとする全てのステークホルダーの期待に応えてまいります。

1. MUFG Way について

MUFG Way は、全ての活動の指針であり、新たに定義した「存在意義（パーパス）」、「共有すべき価値観（バリューズ）」、「中長期的にめざす姿（ビジョン）」から構成されます。

存在意義（パーパス）の「世界が進むチカラになる。」には、「全てのステークホルダーが次へ、前へ進むためのチカラになりたい」という決意を込めています。存在意義（パーパス）がビジネスの起点となり、中期経営計画をはじめとする全ての戦略は確かなベクトルと強い推進力を得て、持続可能な社会の実現に一層貢献していくことができると考えています。

【MUFG Way の全体構造】



(1) 存在意義（パーパス）

「世界が進むチカラになる。」

変化の速い時代、全てのステークホルダーが課題を乗り越え、持続可能な未来、新たなステージへと進もうとしています。その思いを叶えるチカラになること、そのために全力を尽くすこと。これが未来に向けて変わらない MUFG の存在意義です。

全てのステークホルダーの課題を起点とした戦略立案・遂行により、その解決に取り組みます。これを通じて MUFG グループの企業価値を持続的に高めることで、株主・投資家の皆さまの期待に応えていきます。

お客さまのチカラに

- 世代を超えて、誰もが自分らしい豊かな生活を実現するため、デジタルを活用した利便性の高いサービスや、資産形成・資産承継等の様々なニーズに応える卓越したコンサルティング機能を提供します。
- お客さまが変化の時代を乗り越え持続的な成長を実現するため、多様な金融ソリューションとグローバルリーチを活かし、産業育成・事業力強化に貢献します。

地域・社会のチカラに

- 安心・安全とイノベーションの両輪でより強靱な社会を築くため、正確かつ迅速な金融オペレーションを実施し、災害に強いインフラ構築や地方創生等の実現に貢献します。
- サイバーセキュリティを強化する等、堅牢な金融システムの構築や利便性の向上に取り組み、社会全体のデジタルシフトに貢献します。

次世代のチカラに

- 地球環境と人間社会が調和・共生した世の中を実現し、次世代に引き継ぐため、気候変動への対応や環境保全に取り組みます。
- 様々な社会貢献活動を通じ、次世代を担う子供たちの健やかな成長を支援します。

MUFGで働く社員のチカラに

- 社員の自己成長に貢献するため、インクルージョン&ダイバーシティを推進し、生き活きと働きがいを持って仕事のできる職場と成長機会を提供します。

(2) 共有すべき価値観（バリューズ）

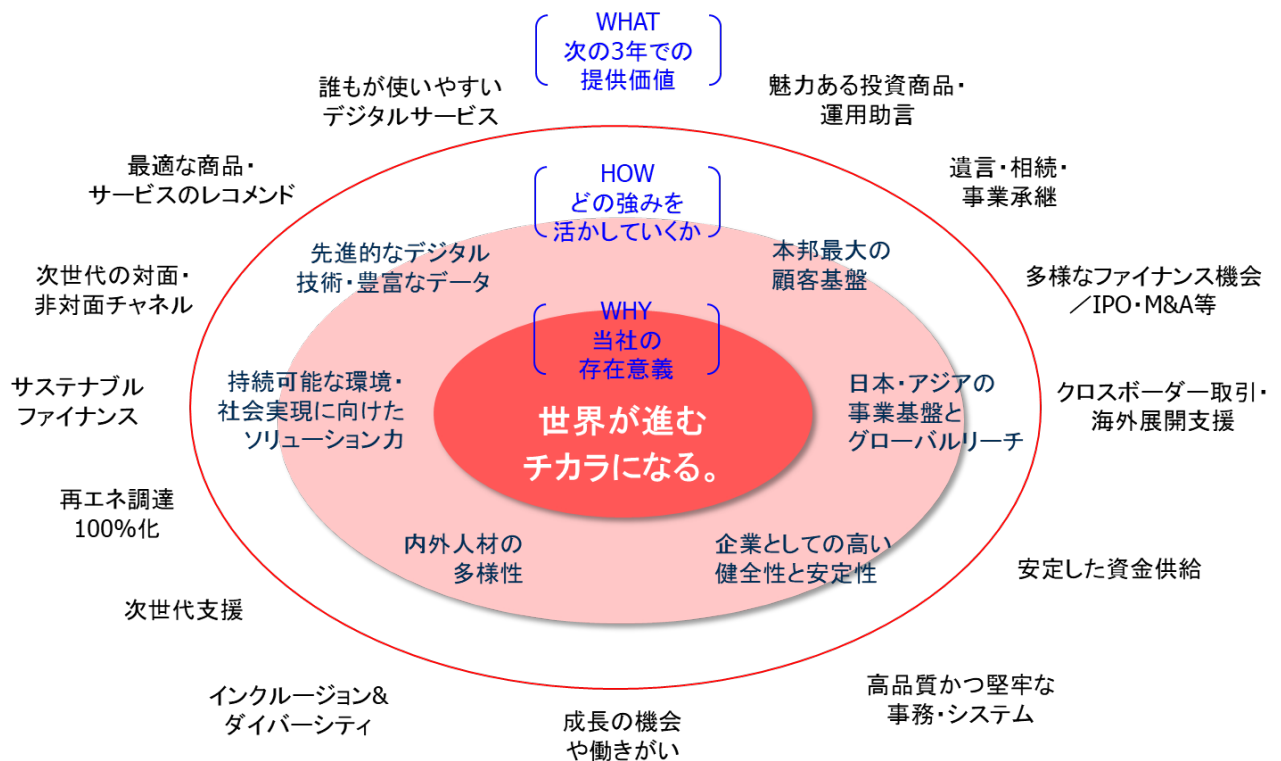
当社は、不変の価値観である「信頼・信用」に加え、「プロフェッショナリズム・チームワーク」「成長と挑戦」を大切にします。

(3) 中長期的にめざす姿（ビジョン）

当社は、全てのステークホルダーが持続可能な未来、新たなステージへと進むチカラになることで、真に社会から必要とされる、「世界に選ばれる、信頼のグローバル金融グループ」をめざします。

2. 存在意義（パーパス） 起点での事業戦略

「世界が進むチカラになる。」を実現するため、全てのステークホルダーの抱える課題に対し、当社の強みを活かしながら、この3年間で具体的に取り組む事業戦略を下の図で表しています。

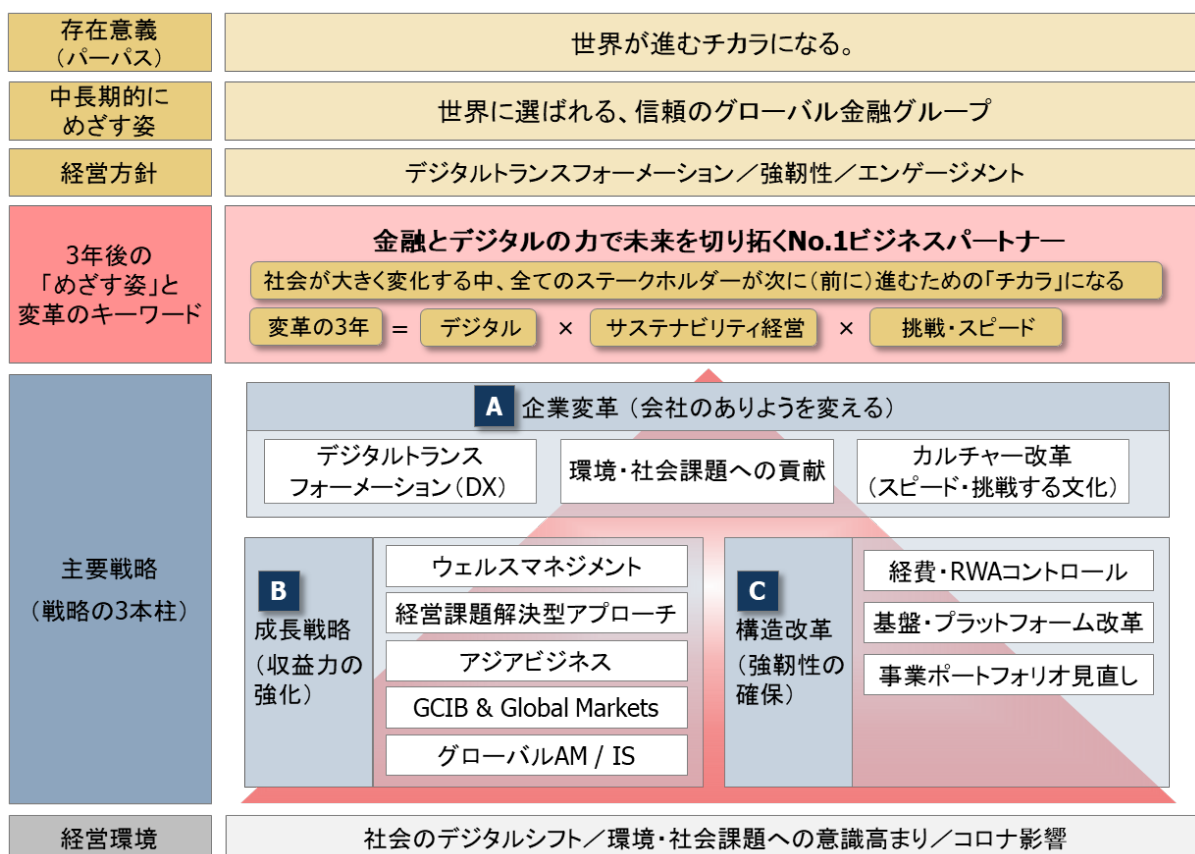


3. 中期経営計画について

(1) 基本方針

今年度から始まる中期経営計画では、3年後のめざす姿として「金融とデジタルの力で未来を切り拓くNo.1ビジネスパートナー」を掲げました。そこには変化の激しい時代において、「全てのステークホルダーが次へ、前へ進むためのチカラになりたい」という思いを込めております。「デジタル」、「サステナビリティ経営」、「挑戦・スピード」をテーマに変革を進め、お客さまと社会の課題に徹底的に向き合い、課題解決に努めてまいります。

(「サステナビリティ経営の高度化」については後段参照)



(2) 主要戦略 (戦略の3本柱)

(A) 企業変革

会社のありようを変える、変革を進めていくという観点から、「デジタルトランスフォーメーション」、「環境・社会課題への貢献」に取り組むとともに、スピードを持って意思決定をしていくための「カルチャー改革」を推進します。

(B) 成長戦略

収益力を強化すべく、「ウェルスマネジメント」、「経営課題解決型アプローチ」、「アジアビジネス」、「GCIB & Global Markets」、「グローバルAM (アセットマネジメント) / IS (インベスターサービス)」を推進します。

(C) 構造改革

強靱性の確保に向け、「経費・RWAコントロール」、「基盤・プラットフォーム改革」および低採算事業の見直しや新規ビジネスへの挑戦といった「事業ポートフォリオ見直し」を推進します。

[サステナビリティ経営の高度化について]

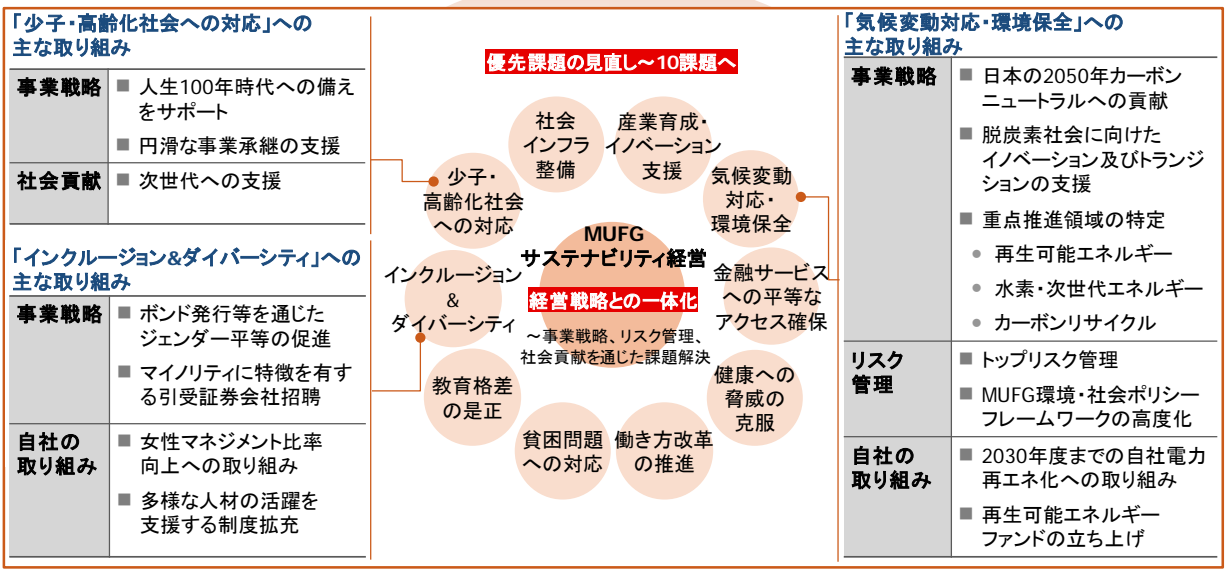
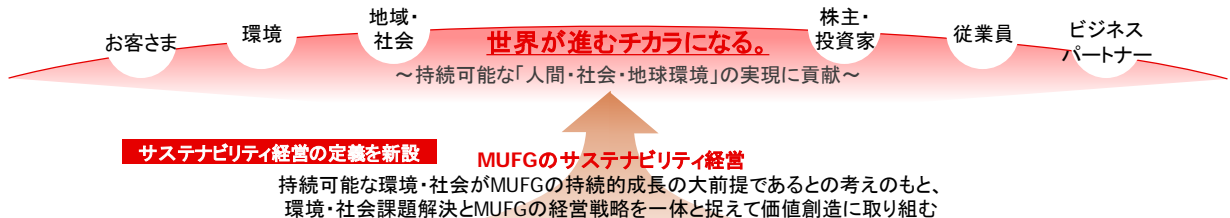
持続可能な環境・社会実現に向けて、新たに制定した存在意義「世界が進むチカラになる。」を起点に、世の中からの期待と、MUFGの事業領域との親和性の両面から優先課題の見直しを実施し、優先的に取り組む10課題を特定しました。

環境・社会課題解決と経営戦略の一体化をより一層強化するため、優先10課題を起点に様々な取り組みを展開します。

「気候変動対応・環境保全」では、日本政府によるカーボンニュートラル宣言等を踏まえ、ビジネス機会とリスク管理の両面から対応していきます。環境と経済の好循環を通じた経済発展を支援すべく、「再生可能エネルギー」「水素・次世代エネルギー」「カーボンリサイクル」を重点領域として推進します。従来2030年度までの累計で20兆円としていたサステナブルファイナンス目標を35兆円に上方修正します。

「少子・高齢化社会への対応」では、人生100年時代に向けた備えとして資産形成、円滑な事業承継等の多様なニーズに応えていくと同時に、将来に向けた資産形成のための投資をより身近に感じていただくために、投資教育について積極的に取り組み、金融リテラシーの向上に貢献します。また、子ども支援団体への寄付等様々な社会貢献活動を通じ、次世代を担う子供たちの健やかな成長を支援します。

「インクルージョン&ダイバーシティ」では、多様性は、“変化の時代”にしなやかに対応していくための強靱性（レジリエンス）を与えてくれる大切な価値観と捉えています。なでしこ銘柄選定企業として女性マネジメント比率の一層の引き上げに向けた取り組みや男性による育児休業取得の推進、性別に関わらない社員一人ひとりのプライベートの事情や意向、適性を踏まえた登用を実施していきます。



以上